

「今日の治療薬 2013」のシクロホスファミド(エンドキサン®)パルス療法についての記載間違い

2013年3月29日

一般社団法人日本神経学会 代表理事 水澤 英洋  
同 診療向上委員会委員長 内山真一郎

2013年1月に発売された南江堂の「今日の治療薬 2013」のリウマチ性疾患治療薬に関する記載に以下のような間違いがあることが判明いたしました。

その間違いは、リウマチ性疾患に対するシクロホスファミド(エンドキサン®)の使用に関する記載です。同書の「免疫抑制薬」の便覧のシクロホスファミドの項目(p.234)では、用量については「抗悪性腫瘍薬」のp.177を参照するようになっています。p.177には、治療抵抗性のリウマチ性疾患に対する注射の用量⑧には「1日1回500~1000 mg/m<sup>2</sup>静注を4週間」と記載されています。本来、この記載は「1日1回500~1000 mg/m<sup>2</sup>静注. 投与間隔は4週間」とすべきもので、誤った記載通りに使用した場合、大量シクロホスファミドを連続4週間投与することになり、大事故につながる恐れがあります。

同書の「免疫抑制薬」の解説(p.230)にはシクロホスファミドの注射療法は月1回パルス投与であると記載されていますが、使用経験の少ない医師が便覧だけを参考にして事故につながる可能性は否定できません。出版社である南江堂も正誤表の配布とともに、同社のホームページにおいてお詫びと訂正の情報発信を行っています。

シクロホスファミドは下記の適応疾患以外にも多発硬化症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎などの免疫性神経疾患の治療においてパルス療法として用いられる場合があります。神経学会の会員はもとより、シクロホスファミドの使用経験の少ない医師にも、同書の記載間違いと適正使用に関して周知をお願いします。なお、多発性硬化症治療ガイドライン 2010(p.73-77)に多発性硬化症での具体的な使用方法・副作用について記述がありますので参照してください。

『今日の治療薬 2013』 p.177

シクロホスファミド水和物

●エンドキサン

適応 ⑧ 治療抵抗性の次のリウマチ性疾患：SLE、全身性血管炎（顕微鏡的多発血管炎、ヴェゲナ肉芽腫症、結節性多発動脈炎、Churg-Strauss 症候群、大動脈炎症候群等）、多発性筋炎・皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、及び血管炎を伴う難治性リウマチ性疾患

用量： 誤記 1日1回500~1000 mg/m<sup>2</sup> 静注を4週間

⇒ 正 1日1回500~1000 mg/m<sup>2</sup> 静注. 投与間隔は4週間